

小檀林
教科書

佛教修身階梯

全

K220/B
2

K220.13

2

佛教脩身措梯

父子第一

佛言ハ凡子ノ能ク父母ニ事ル法五アリ、一ニハ常

ニ産業

ヲ勤ムヘシ、二ハ朝ハ早起テ奴婢ニ命シテ

飲食ヲ供

セシメヨ、三ニハ父母ノ憂ヒテ益スル勿

レ、四ニハ

常ニ父母ノ重恩ヲ念スヘシ、五ニハ父母

疾病ヲ

トキハ惧テ良醫ヲ求メテ療養スヘシ、

佛言ハク父母ノ其子ヲ視ルニモ亦五法アリ、一ニハ

常ニ其子ヲシテ惡ヲ去リ善ニ就カシメンテ念

スヘシ、二ニハ計算書疏ヲ教ユヘシ、三ニハ教訓シ

テ經戒ヲ持セシムヘシ、四ニハ良婦ヲ娶ランテ



念セヨ、五ニハ家中ノ所有ヲ盡シテ讓與フヘシ、
 ○讚岐ハ源賴政ノ女ナリ、二條院ニ仕ヘテ和歌ヲ能
 ス、常ニ人ニ謂ヒ曰ク吾レ少小ニシテ恃ヲ失ヘリ、
 誕辰ニ値フ毎ニ母氏ノ劬勞ヲ憶フテ未曾テ惆悵
 セスンハアラス、然ルニ世人多クハ、誕辰ヲ以テ宴
 フ張テ相賀シ盃盤狼藉シ賓客門ニ闌ツ、是吾ノ解
 セサル所ナリト、唐太宗全同之
出資治通鑑

○釋永緣ハ九歳ノ時父ヲ喪フ、母携テ南都ニ赴ント
 シテ柝ノ森ニ憩フ、會興福寺ノ慈善、維摩講師ノ詔
 フ受テ洛陽ニ赴ク、儀衛甚盛ナリ、母緣ニ語テ曰ク
 汝カ父已ニ亡ス我レ寡ニシテ育スルヲ能ハス、故

ニ汝ヲシテ出家セシメント欲ス、安ソ此ノ僧都ノ
 如キヲ得ン、汝其勉勵セヨト、言已テ髮ヲ撫テ潜然
 タリ、既ニシテ習學日ニ新ナリ、應徳元年維摩講ノ
 詔ヲ稟テ洛陽ニ赴ク、柝ノ森ニ至リ忍母ノ昔ノ訓
 ヲ念ヒテ感泣シテ進マシ、僕從行ヲ促ス、緣曰ク汝
 等知ラス、昔我レ九歳ノ時母氏ニ伴レテ此地ニ息
 フ、先妣誨勵シテ能ク我ヲ玉成ス、林木舊ノ如クナ
 レトモ昔人非ナリト、僕隸皆袂ヲ反ス、

○釋求那跋摩ハ天竺ノ人ナリ、出家ノ後闍婆國ニ至
 ル、王ノ母敬スルニ聖禮ヲ以テシ從テ五戒ヲ受ク、
 母因テ王ヲ勸テ曰ク宿世ノ因緣ニテ母子タルヲ

ヲ得、我已ニ受戒ス、而レトモ汝信セス、恐ラクハ後
生ノ因永ク令果ニ絶ンカ、王遂ニ母ノ命ヲ奉テ受
戒スト云フ、

師第第二

佛言ハク弟子ノ師ニ事ルニ五法アリ、一ニハ常ニ師
ヲ敬ヒ難カルヘシ、二ニハ常ニ其恩ヲ念スヘシ、三
ニハ其教ユル所ニ違フ_レ莫_レ、四ニハ其恩ヲ念シ
テ厭ハサレ、五ニハ後ニ從テ師ノ善ヲ稱譽スヘシ、
佛言ハク師モ亦弟子ヲ視ルニ五事アリ、一ニハ疾ク
學_レ知_ラシメヨ、二ニハ他人ノ弟子ニ勝レシメヨ、三
ニハ知_ル已_ルモノハ忘_レサ_ラシメヨ、四ニハ諸疑難

アラハ悉ク爲ニ解釋スヘシ、五ニハ智慧ヲシテ師
ニ勝レシメヨ、

○大國阿闍梨日朗上人ハ下總國秣_麻島郡能天村ノ産
ナリ、十歳ノ時父有國携テ鎌倉ニ至テ高祖ニ侍セ
シム、高祖授ルニ教家ノ書ヲ以テス、師教々懈ラス、
讀書ノ餘暇須臾モ高祖ノ膝下ヲ離_レス、早起テ香
燭ニ侍シ後卧シテ床下ニ枕ス、一動一止毫モ私ヲ
容_レス、是六子ノ中ニ師考第一ト稱セラル、所以
ナリ、

○智正 續傳十六
兼行錄

○法遇 高僧傳五
兼行錄

夫婦第三

佛言ハク婦ノ良人ニ事ル五法アリ、一ニハ常ニ良人ヲ敬フヘシ、二ニハ炊蒸掃除洗濯等ヲ勤テ勞テ厭ハサレ、三ニハ奸淫スヘカラス、四ニハ良人ノ教誡ヲ用ユヘシ、五ニハ良人寐テ後ニ卧スヘシ、

佛言ハク夫ノ婦ヲ視ルモ亦五アリ、一ニハ愛敬スヘシ、二ニハ衣食時ヲ以テ與フヘシ、三ニハ所用ノ資具ヲ與フヘシ、四ニハ所有ニ隨テ悉ク用テ付與セヨ、五ニハ外ニ於テ密會セサレ、

朋友第四

佛言ハク凡ソ我ノ親戚朋友ヲ視ルニ五事アリ、一ニハ惡ヲ作スヲ見ルトキハ屏處ニ於テ諫止スヘシ、

二ニハ急事アルトキハ奔趨シテ救護スヘシ、三ニハ私語ヲ以テ他人ノ前ニ説ク勿レ、四ニハ互ニ相尊敬シ讚歎スヘシ、五ニハ財ヲ與ヘテ乏ヲ救フヘシ、

佛言ハク惡友ニ四輩アリ親近スヘカラス、一ニハ内ニ惡心アレトモ外強テ知識ノ爲^{コト}ラス、二ニハ人ノ前ニ於テハ言語ヲ好クシ背後ニ於テ惡事ヲ説ク、三ニハ急アルトキハ人ノ前ニ於テ愁苦スレトモ背後ニ於テ歡喜ス、四ニハ外ハ親厚ノ如クナレトモ内ハ惡謀ヲ藏ス、

主從第五

佛言ハク主人ノ奴婢ヲ視ルニ五事アリ、一ニハ時ヲ以テ衣食ヲ與フヘシ、二ニハ病者アラハ醫ヲ呼テ療治セシメヨ、三ニハ妄リニ罵詈シ打擡セサレ、四ニハ其私財ヲ奪フ勿レ、五ニハ物ヲ與フルトキハ平等ニ頒附スヘシ、

佛言ハク奴婢ノ主人ニ事ルモ亦五アリ、一ニハ早起テ主人ニ呼シムル勿レ、二ニハ作スヘキ所ハ次ノ如ク心ヲ用井テ爲スヘシ、三ニハ主家ノ物ヲハ愛惜スヘシ、四ニハ主人ヲ敬フヘシ、五ニハ主人ノ善ヲ稱譽シテ其惡ヲ説ク勿レ、

道人第六

佛言ハク凡ソ沙門有道者ニ事ル法五アリ、一ニハ善心ヲ以テ向フヘシ、二ニハ好言ヲ擇ンテ與ニ語ルヘシ、三ニハ身ヲ以テ之ヲ敬フヘシ、四ニハ常ニ戀慕スヘシ、五ニハ恭敬承事シテ度世ノ法ヲ問訊スヘシ、

佛言ハク道人ノ之ヲ視ル法亦六アリ、一ニハ惠施ヲ教テ慍嗇ナカラシメヨ、二ニハ遮惡ヲ教テ身口ヲ慎マシメヨ、三ニハ忍辱ヲ教テ瞋怒セサラシメヨ、四ニハ精進ヲ教テ怠慢セサラシメヨ、五ニハ一心ヲ教テ放逸セサラシメヨ、六ニハ正慧ヲ教テ邪見ナラサラシメヨト、大方廣經

佛言ハク凡ソ世出世ノ恩ニ四種アリ一ニハ父母ノ恩、二ニハ衆生ノ恩、三ニハ國王ノ恩、四ニハ三寶ノ恩ナリ、是ノ如キ四恩ハ一切衆生平等ニ荷負ス、

心地觀經

○釋明惠母尾ニ居ス、平ノ泰時遠ク徳風ヲ聞テ仰慕スルト久シ、承久ノ亂ニ京師ニ在リシ時人皆流言スラツ母尾ノ山中ニ多ク敗軍ノ士ヲ匿スト、軍吏山ニ入テ搜索スレトモ得ス、卒ニ明惠ヲ將テ來ル、泰時矍然トシテ席ヲ避テ恭ク來儀ヲ謝ス、明惠曰ク抑母尾ハ不殺ノ地ナリ、是ニ因テ禽獸ノ類モ亦此ニ逃レ住ムナリ、又我本師ハ鳩ヲ教ヒ虎ヲ飼フ、

我不逮トイヘトモ適命ヲ逃レ來ルモノハ吾ニ依テ免ルヘクンハ則袈裟下ニモ亦能ク之ヲ藏サン、若シ政道ヲ妨ケハ速ニ吾ニ死ヲ賜ンノミト、泰時感泣シテ後數々母尾ニ詣テ、教ヲ受ルト云フ、

止惡第七

佛言ハク衆生十事ヲ以テ善ト爲シ、亦十事ヲ以テ惡ト爲ス、何等ヲ十ト爲スヤ所謂身三口四意三是也、身三トハ殺生、偷盜、邪淫ナリ、口四トハ兩舌、惡口、妄語、雜穢語ナリ、意三トハ貪嫉、瞋恚、愚痴ナリ、此ノ十事若シ聖道ニ順セサルヲ十惡行ト名ケ、此惡若シ止ルヲ十善行ト名ク、四十二經

佛言ハク人能ク四戒ヲ持チテ犯サ、ル者ハ今世ニ
ハ人ニ敬ハレ、後世ニハ天上ニ生ル、一ニハ諸群生
ヲ殺サス、二ニハ他物ヲ盗マス、三ニハ他人ノ婦女
ヲ愛セス、四ニハ妄言兩舌セス、

佛言ハク復六事アリテ錢財日ニ耗減ス、一ニハ喜^コン
テ酒ヲ飲ミ、二ニハ喜ンテ賭博ヲ爲シ、三ニハ喜ン
テ早卧シ且晚ク起ル、四ニハ喜ンテ客ヲ請シ亦人
ニ之ヲ請セシム、五ニハ喜ンテ惡友ニ親近シ、六ニ
ハ憍慢ニシテ人ヲ輕蔑ス、大方廣經

佛言ハク人過失アリテ自ラ改悔セサレハ罪來テ身
ニ赴ク、譬ヘハ水ノ海ニ歸シテ漸ク深廣トナルカ

如シ、若シ人過アリテ自ラ非ヲ知リ、惡ヲ改メ善ヲ
行セハ罪自ラ消滅ス、譬ヘハ病ノ汗ヲ得レハ漸ク
痊^イルカ如シ、

佛言ハク惡人ノ賢者ヲ害セントスルハ猶天ヲ仰テ
唾スルニ唾天ニ至ラスシテ還テ已ニ從テ墮ルカ
如シ、又逆風ニ塵ヲ揚ルニ塵彼ニ至ラスシテ還テ
己カ身ヲ塗^ヌスカ如シ、賢者毀ルヘカラス、禍ヒ必ス
己ヲ滅サント、四十二經

行善第八

佛言ハク世ニ八種ノ福田アリ、之ニ善苗ヲ種レハ福
ヲ得ル、一無量ナリト、八種トハ、一ニハ曠路ニ義井

ヲ鑿リ、二ニハ橋梁ヲ架設シ、三ニハ險路ヲ平治シ、
四ニハ父母ニ孝養シ、五ニハ三寶ヲ恭敬シ、六ニハ
病者ヲ看護シ、七ニハ貧窮ヲ救濟シ、八ニハ無遮會
ヲ設ク、

○行基

釋書、十四
卷傳中

○忍性

同上

佛言ハク人ノ道ヲ施スヲ視テ歡喜シテ之ヲ助クレ
ハ福ヲ得ルト甚大ナリ、譬へハ一炬ノ火、數千百人
各炬ヲ以テ來リ分取テ食ヲ熟シ冥ヲ除ケトモ此
炬火終ニ故ノ如シ、其福モ亦然リ、
佛言ハク佛子吾ヲ離ル、ト數千里ナレトモ吾戒ヲ
憶念セハ必ス道果ヲ得ン、吾左右ニアリテ常ニ吾

ヲ見ルトモ吾戒ヲ顧ミサレハ終ニ道ヲ得ス、

佛言ハク人ノ情欲ニ隨テ聲名ヲ求ム、若シ聲名顯著
スレハ身已ニ故ス、譬へハ香ヲ燒クニ人ハ香ヲ聞
クト雖香ハ自ラ燼スルカ如ク、身ヲ危スルノ火而
モ其後ニ在リ、

佛言ハク佛道ヲ學フモノハ佛ノ言說スル所皆信順
スへシ譬へハ蜜ヲ食フモノ中邊皆甜キカ如シ、吾
經モ亦然リ、四十二卷經

雲棲曰ク人ノ世ニ處スル各好ム所アリ、亦各好ム所
ニ隨テ日ヲ度リテ終ニ老ス、但清濁同シカラス、至
濁ナル者ハ財ヲ好ム、其次ハ色ヲ好ム、其次ハ飲ヲ

好ム、稍清ナル者ハ或ハ古玩ヲ好ミ、或ハ琴棋ヲ好
 ミ、或ハ山水ヲ好ミ、或ハ吟咏ヲ好ム、又之ヲ進メハ
 書ヲ讀テ開卷有益ヲ好ム、諸好ノ中ニ於テ讀書ヲ
 以テ最トス、然レトモ是世間ノ法ナリ、又之ヲ進テ
 内典ヲ讀ムト好ム、又之ヲ進テ其心ヲ淨ムルト
 好ム、是世出世間ノ好中最勝矣、漸ク佳境ニ入ル、
 蔗ヲ食フ、如シ、
 遊筆

艸山曰ク理ヲ見ルモノハ必ス畏ル、故ニ善トシテ行
 セサルハナシ、譬ヘハ蝮蛇ノ人ヲ螫ヲ知ラハ人必
 ス之ヲ避ルカ如シ、凡ソ人ノ惡ヲ畏レズ善ヲ勉メ
 サルモノハ是理ヲ見サルニ由レリト、竹庵遺稿

忍辱第九

佛言ハク人アリ吾道ヲ守リ仁慈ヲ行フヲ聞テ故ラ
 ニ來テ吾ヲ罵シレトモ黙シテ對ヘス、罵リ止ム、問
 テ曰ク子禮ヲ以テ人ニ從ヘトモ其人納サルトキ
 ハ禮子ニ歸センカ、對テ曰ク吾ニ歸セン、佛言ハク
 今子我ヲ罵シレトモ我今納レズ、子自ラ禍ヲ持テ
 子カ身ニ歸ス、猶響ノ聲ニ應シ、影ノ身ニ隨フ如ク、
 終ニ免脱スルトナシ、慎テ惡ヲ爲ス勿レ、四十二章經
 佛言ハク若シ人アリ來テ節々ニ支解ストモ當ニ自
 ラ心ヲ攝ムヘシ、亦口ヲ護テ惡言ヲ出スト勿レ、忍
 ノ徳タルヤ持戒苦行モ及フト能ハサル所ナリト、
遺教經

○釋大圓ハ洛東觀勝寺ニ居ス、一時隣房ノ兒童酒ニ
醉テ狗ヲ打ツ、狗悲吠スル、甚シ、圓ノ徒童子ヲ叱
ス、童子醉狂益熾ニシテ房戸ヲ擊破ス、諸徒圓ニ訴
ヒ曰ク此童狂戾ナリ、官ニ聞シテ之ヲ治セント、圓
曰ク子等此ニアリテ佛ヲ學テ我訓ノ逮ハサルヲ
羞ツ、且我法ハ平等ヲ以テ有情ヲ待ス、一切ノ含識
自性清淨ナリ、而トモ無明ノ酒ニ醉、サレ煩惱ノ鬼
ニ亂サレテ狂醉セリ、我輩此ニ逢ハ、宜ク慈悲ヲ
發シテ彼暴ヲ調訓スヘシ、何ソ世俗ノ官法ヲ假ラ
ンヤ、後童主來テ謝ス、圓曰ク稚童ノ戲劇ハ家ノ常
ノミ、我徒之ヲ志ル、是我不徳ヲ添ルノミト、童主長

者ノ語トナシテ益敬ヲ加フ、元子釋書

○富樓那 文句

○藤原爲輔ハ左大辨朝頼ノ子ナリ、嘗テ曰ク人常ニ
屏風ヲ張、設ルカ如ク小屈曲アレハ亦此レヲ以テ
立ツ、而シテ自ラ嚴正ヲ失セス、若シ徑ニ方正ヲ欲
セハ則倒レ、且事ヲ作サスト、時人以テ徳言ト爲ス、
立志第十 皇朝家求

佛言ハク若シ人勤精進スレハ事トシテ難キモノナ
シ、譬へハ小水ノ常ニ流レテ能ク石ヲ穿ツカ如シ、
佛言ハク若シ智惠アルモノハ貪著ナシ、常ニ自ラ省
察シテ過失ナカラシメヨ、實智惠ハ是老病死海ヲ
度ル堅牢ノ船ナリ、亦是無明黑闇ノ大燈明ナリ、一

切病者ノ良藥ナリ、煩惱樹ヲ伐ル利斧ナリ、是故ニ
 汝等當ニ聞思修ノ惠ヲ以テ自ラ増益スヘシ、道數經
 瀉山曰ク今ノ初心緣ニ從テ一念ニ自ラ理ヲ頓悟ス
 トイヘトモ、猶無始曠劫ノ習氣アリテ未頓淨ナル
 能ハス、故ニ須テク現業流識ヲ淨ムヘシ、即是修ナ
 リト、道數經

雲棲曰ク智ニ種アリ、世間智ト出世間智トナリ、世智
 又ニアリ、一ニハ博學宏辭、長技遠略、但多知多解ヲ
 以テ人ニ勝ルモノナリ、二ニハ善惡ヲ明ニシ邪正
 ヲ別テ、其行フヘキ所ヲ行ヒ、其止ムヘキ所ヲ止ル
 モノナリ、僅ニ其初ヲ得ル之ヲ狂智ト謂フ、當ニ三

途ニ墮スヘシ、兼テ其後ヲ得ル之ヲ正智ト謂フ、報
 人天ニアリ、出世間智亦ニアリ、一ニハ善ク如來ノ
 正法四諦六度等ヲ分別シテ奉行スルモノ是ナリ、
 二ニハ無明ノ惑ヲ破シテ實ノ如ク了々ニ自ノ本
 心ヲ見ルモノナリ、僅ニ其初ヲ得ル是出世間智ナ
 リ、名テ漸入トス、兼テ其後ヲ得ル是出世間上々智
 ナリ、乃頓超ト名ク、何ヲ以テノ故ニ但本ヲ得レハ
 未ヲ愁ヒス、未ヲ得ルモノ未必ス本ヲ得サレハナ
 リト、竹窓隨筆

艸山曰ク出家ハ法王ノ子ニシテ法王ノ位ヲ繼クモ
 ノナリ、三界ハ我家ナリ、四生ハ吾子ナリ、所以ニ上

君長ナク、下臣民ナシ、豈ニ尊無過上ニ非スヤ、本山集
 ○釋高辨ハ九歳ノ時父母亡ス、高尾山ノ上覺ニ徒テ
 俱舍頌ヲ習フ、旬日ナラスシテ暗誦ス、一日群兒ト
 遊戯ス、忽猛省シテ曰ク我父母既ニ逝ク、今何處ニ
 生ヲ受ルヲ知ラス、若シ夫レ三途ニ墮スルトセン
 カ今日正ニ劇苦ニ堪ヘサルヘシ、我何ソ遊戯ヲ恣
 ニスルノ時ナランヤ、將天上ニ生スルトセンカ天
 眼礙ルナシ、晝夜ニ我ヲ視ン、若シ我遊戯スルヲ
 見給ハ、存在ノ日ノ如ク常ニ其心ヲ苦マシメン、
 偶之ヲ思ヒハ縱タ令人之ヲ言ハサルモ我自ラ心ニ
 愧サランヤト、爾來遊戯ヲ斷シテ學業ヲ勤ム、客傳中

○玄奘

客傳上

○明詮

釋書二

○羅什三歳ハ七歳ニシテ出家シ日ニ千偈ヲ誦シ義
 自ラ通達セリ、九歳ノ時母ニ隨テ辛頭河ヲ渡テ罽
 賓國ニ至リ盤頭達多ヲ師トシテ阿含ヲ受ク、達多
 其神俊ヲ稱ス、遂ニ聲王ニ徹ス、王即請入シテ外道
 論師ト問答セシム、彼其年少ヲ輕メテ言頗ル不遜
 ナリ、師隙ニ乘シテ之ヲ挫ク、外道閉口ス、王益敬異
 ス、既ニシテ國ニ歸ル、母師ニ謂テ曰ク方等ノ深教
 大ニ真丹ニ弘ルヘシ、之ヲ東土ニ傳ルハ唯汝ノ力
 ナリ、然レトモ自身ニ於テ益ナシ、師曰ク大士ノ道
 ハ彼ヲ利シテ軀ヲ忘ル、若シ必ス大化ヲシテ流傳

セシメテ能ク矇俗ヲ洗悟セシメハ復身爐鑊ノ苦
 ニ當ルトイヘトモ恨ナシト、高僧傳
 ○釋仁岳ハ雲川ノ人、初、法智湖南ノ化ヲ聞テ往赴シ
 テ學ヲ爲ントス、水月橋ニ至テ笠ヲ水中ニ擲テ曰
 ク學若シ成スンハ復此橋ヲ過キスト、法智之ヲ器
 トシテ東厦ニ居ラシム、白晝膏ヲ焚テ專ラ細繹ヲ
 事トス、郷書至ルトイヘトモ悉ク帳閣ニ投シテ未
 嘗テ啓キ視ス、一日境ヲ出テ、分衛ス、舟ニ乘テ水
 行シ偃卧足ヲ舒ス豁然トシテ自得ス、略傳上

佛敎脩身楷梯終

明治廿九年九月十八日印刷
 明明廿九年九月二十日發行

定價金十二圓

大檀林教授

編輯者

河合日辰

東京市芝區麻布通町十八番地寄留

發行所

河原振藏

東京府住原野池上村十六番地

發行所

日宗新報社

東京府住原野池上村下池上十六番地

印刷所

青山活版所

東京市本町九丁目六番地



